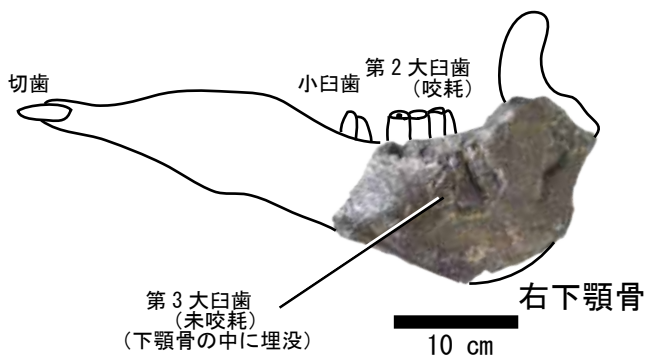


博物館収蔵資料の紹介 12 デスモスチルス穂別標本

第3大臼歯 (未咬耗) 左大臼歯^{だい きゅうし} 右大臼歯 第3大臼歯 (未咬耗) 右下顎骨 (一部)

第2大臼歯 第1大臼歯 第2大臼歯



発見 1978年に地質調査をしていた河野哲氏ほか4名が発見し、その後穂別町教育委員会が中心となって発掘を行いました。

産出部位 下顎骨の一部、大臼歯、頸椎、胸骨、肋骨 **産出地・地質時代** 穂別安住・中新世滝の上層 (約1,500万年前の地層)

研究 1984年と1985年の論文*で記載されました。すでにサハリン気屯標本などのデスモスチルスの全身骨格が産していたため、穂別標本から得られる新知見はそれほど多くありませんでしたが、保存良好な臼歯がまとまって産し、歯種を鑑定することができたことに意義があるとされています。

* 木村方一・赤松守雄, 1984. 北海道穂別町産デスモスチルスについて (第1報). 穂別町立博物館研究報告, 第1号, p. 11-23, 5pls.

木村方一, 1985. 北海道穂別町産デスモスチルスについて (第2報). 穂別町立博物館研究報告, 第2号, p. 51-61, 7pls. 学芸員 西村智弘

デスモスチルスについて



穂別博物館のデスモスチルス展示説明

デスモスチルスは絶滅した半海生あるいは海生の哺乳類で、約1,500万年前を中心に北太平洋沿岸に生息していたグループです。これまでにさまざまな復元が行われています。昔の復元の一つであるヒレがある復元案は受け入れられていませんが、最近でもその姿勢や、遊泳能力の優劣が議論されています。

柱を束ねたような臼歯の形が特徴的で、これがデスモスチルスという名の語源となっています。大白歯は前方の使用（咬耗してる）の臼歯を後方の骨の中に埋没している新しい臼歯が押し出すような形で生え変わります。使用していない臼歯は咬耗しておらず、バナナの房のような形をしています。大白歯は第1～第3大白歯の順序で生え、左右上顎・下顎それぞれで1本ないし2本の臼歯が同時に使用されます。こうした歯の交換様式は水平交換と呼ばれ、現生の哺乳類では長鼻目（ゾウなど）や海牛目（ジュゴン、マナティー）でも見られます。

デスモスチルスの全身骨格として、サハリンの気屯標本、北海道の歌登第一標本が非常に有名です。束柱目（デスモスチルスを含むグループ）の化石は北海道足寄町産のものが有名で、足寄動物化石博物館に立派な展示があります。 学芸員 西村智弘



デスモスチルス歌登第三標本レプリカ
(穂別博物館展示資料)



穂別博物館・図書館

穂別地球体験館

穂別地球体験館庭の デスモスチルス 大白歯オブジェ

穂別地球体験館の庭にはデスモスチルス大白歯のオブジェがあります。座りやすいように咬耗した大白歯のみが置かれています。

[アクセス]



開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人/小~高校生: 100円

大人 300円

団体/小~高校生: 50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

休館日

10月

6(月) 14(火) 15(水)

20(月) 27(月)

11月

4(火) 5(水) 10(月)

17(月) 25(火) 26(水)

町民無料観覧日

11月3日(月・祝)

(文化の日)

11月23日(日)

(勤労感謝の日)